

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1-42	令和2年度「第1回墨田区がん対策推進会議」		
開催日時	令和2年8月25日(火) 午後1時半から午後3時まで			
開催場所	すみだリバーサイドホール1階会議室			
出席者数 (18人)	<p>【外部関係者】渡邊清高、足立健介、福井一人、寺田仁志、武井和彦、桜井なおみ、佐藤文子、川越博美、椎名美恵子、佐藤幾洋子(敬称略)(計10人)</p> <p>【部内関係者】保健衛生担当部長、保健衛生担当次長(保健計画課長事務取扱)、向島・本所保健センター所長、保健予防課長(計4人)</p> <p>【事務局】保健計画課健康推進担当主査2人・保健計画課健康推進担当主事2人(計4人)</p>			
会議の公開	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
	非公開(傍聴できない)			
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 部長挨拶 3 委員及び関係課長の紹介 4 墨田区がん対策推進会議及び専門部会の概要について 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 墨田区のがんを取り巻く現状について (2) がん対策における新型コロナウイルスの影響 (3) 令和2年度がん対策事業の実施予定について 6 閉会 			
配 布 資 料	<p>【机上配布資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「墨田区がん対策推進会議」委員名簿 2 令和2年度「墨田区がん対策推進会議」の概要 3 令和2年度墨田区がん対策推進会議「がん検診精度管理部会」の概要 4 令和2年度墨田区がん対策推進会議「たばこ対策部会」の概要 5 墨田区のがんを取り巻く現状(最新データ) 6 がん対策における新型コロナウイルス感染症の影響 7 令和2年度がん対策事業の実施予定について 8 ご意見・ご質問シート 			

<p>会 議 概 要</p>	<p>1 開会</p> <p>2 部長挨拶 (省略)</p> <p>3 委員及び関係課長の紹介 (省略)</p> <p>4 墨田区がん対策推進会議及び専門部会の概要について 資料2～4に基づき、事務局より説明</p> <p>5 議事 (1) 墨田区のがんを取り巻く現状について資料5に基づき、事務局より説明。 【意見・質問等】</p> <p>渡邊会長： がん対策推進計画に基づいて、墨田区は事業を進めているところであるが、地域がん診療連携拠点病院として、足立委員にご意見を頂戴したい。</p> <p>足立委員： 私はもともと外科医で消化器外科にてがんの診療をしており、以前は多摩総合医療センターにいた。(墨田区のがんを取り巻く現状について)多摩地区と比較しながら墨田区の状況について興味深くみさせていただいた。墨東病院については、東京都の東の地域の患者を多く受け入れている。(墨田区は)75歳未満のがん死亡率が高いといういことをきき、検診業務を含めて、どのようにがん対策をすすめていけばいいのか。検診・早期発見・早期治療(が大事)というが、(墨田区のがん死亡率が高いのは)検診施設が少ないのか、地域の方々の区民の健康意識の啓発をするべきなのか。2人に1人ががんになり、3人に1人はがんで死亡する時代。高齢化も関連して、もっと数字は悪くなるかもしれない。どのように取り組めばよくなるか、考えていきたいと思う。</p> <p>渡邊会長： 予防・検診・治療と一体になって、対策を行う必要がある。単年度だけでは結論を出すのは難しい。高齢化の影響もあろうかと思うが、年齢調整をしても墨田区のがん死亡率は高いという状況。包括的に対策を行っていくことが必要かと考える。</p> <p>西塚委員： 都立病院改革の一環で、多摩キャンパスでは、検診センターを独立させて、かかりつけ医で1次検診を受診後、精密検査が必要な場合は検診センターですぐ受診できる仕組みがつくられている。また、他にも内視鏡検査等を充実させたり、通いの抗がん剤治療を受けやすくするなどの取り組みをしているときいている。都立墨東病院では、がん診療連携拠点病院としての取り組みのなかで、例えば精密検査の受診率が悪い大腸・肺の精密検査等がスムーズにできる仕組みをつくることはできるだろうか。</p>
----------------	---

足立委員：多摩（総合医療センターにいたとき）は手術件数が多かったが、それに比べると、墨東での件数は少ない印象を持っている。多摩は検診センターを併設していて、異常が見つかったら、診療へつないでもらう仕組みになっている。約25年前は乳がんの患者さんは年間50～100ぐらいだったが、今は300を超えている。大腸がんの手術件数も300を超えている。いずれも墨東病院の倍の件数である。検診業務と連携をして、治療までつなげることができれば、件数はそれなりに上がると思われる。大腸がんの手術の件数が多いのは、早期のがんで内視鏡での切除手術をしているケースが多い。胃がんも内視鏡治療を取り入れたり、ロボット手術を導入したりしている。患者さんを集めるだけでなく、地域の皆さんにどのように貢献できる病院になれるか考えていきたい。

（２）がん対策における新型コロナウイルスの影響 資料6に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

福井委員：がん検診事業のところで補足だが、緊急事態宣言中は、各がん検診を休止したほか、胃がん検診は5月から7月まで中止としていた件について、物品が足りないという声が医療機関からあがっていた。内視鏡検査については、他のがん検診よりも飛沫が飛ぶ関係で、ガウンや手袋・マスク・帽子を1回1回取り替える必要があり、とてもできる状況じゃないという声が早期からあがっていた。緊急事態宣言中は、解除されたら6月頃から再開しようという声もあったが、物資の供給が未だに滞っている状況であるため、6月、7月から早期に再開していたとしても、物資が足りなかったと思われる。実際は秋に検診ができるかどうかも定かではないところ。

川越委員：在宅緩和ケアでは、個別相談・がん患者同士での分かち合い・ミニ講座をしている。集まる方は、がんの治療中の人、治療を終えて緩和ケアを受けている方々のため、（これまで通り相談会等を）実施したかったが、中止せざるを得なかった。コロナの状況でこれまでのやりかたを変えていかななくてはならない。墨田区は在宅での死亡率が多いというデータが紹介されたが、地域の先生方、訪問看護ステーションや薬局がうまく連携が取れている。都立墨東病院も相談支援センターソーシャルワーカーや看護師さんがうまくつないでくれる。

渡邊会長：対面での相談等が難しい状況のなかで、様々な方法で工夫してくださっているところかと思う。

桜井委員： 私たち、患者会でもオンラインの集まりに切り替えて実施しているところだが、情報弱者の割合はどれくらいなのだろうか。

事務局： 墨田区でもオンライン会議は徐々に取り入れているところではあるが、高齢の方を中心に端末が扱うことができない方も多くいることは認識している。区としても、オンライン会議ができる環境の整備を進めている。

(3) 令和2年度がん対策事業の実施予定について資料7の①個別目標1「科学的根拠に基づくがん予防の充実」に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

渡邊会長： 武井委員はたばこ対策部会でも委員をしていただいているが、何かご意見はあるだろうか。

武井委員： 法令が4月に施行されて、安堵しているところ。歯科医師会の病院もそうだが、薬局においてもたばこ対策をどのようにするかについて、区と連携し、会員の先生方をお願いをして、(受動喫煙防止対策実施施設登録制度の)ステッカーを診療所等に貼ってもらう協力を依頼するなど難儀していた。今回の法律で規制をしてもらって、良かった。

西塚委員： 公衆喫煙所の整備に関する補助を新しく始めているが、状況を確認したい。

事務局： 今年度から民間事業所が、公衆喫煙所を設置する費用の一部を公費で助成することとなっている。昨年からコンビニ等から問合せを受けているが、コロナの影響もあると思うが、特に進展はない。

② 個別目標2「がんを早期発見するためのがん検診の充実」について資料7の「個別目標2」に基づき、事務局より説明。

渡邊会長： 今年度前半については、がん検診の実施は難しかったという状況だったということだが、精度管理については、新しい取組みをするということ、自己負担額の導入について検討するとの説明があった。福井委員何かご意見はあるか。

【意見・質問等】

福井委員： (資料7に基づいて)評価指標について、事務局よりご説明いただいたが、区民のがん検診の受診率が人間ドッグを含むので、かなり高い値になっている。資料5の受診率に比べると、全体的に高い数字、もう少し頑張れば、目標値の50%を超えますよ、という数値に見える。そのため、精密検査受診率以下の数値は、墨田区の検診からの数値で、「区民のがん検診受診率」については、墨田区のがん検診事業のみではな

く、職域の検診も含むものである等、注釈を入れた方がよい。昨年度の精度管理部会での検討事項で、要精検率や精密検査未把握率等については、貴院の未把握率は何パーセントですというデータをがん検診実施医療機関へ通知している。未把握率が高い場合は指導をしたり、最悪の場合、区の検診実施機関を辞退してもらおう等も検討している。

自己負担額の導入については、墨田区は歴史的に自己負担額のないがん検診が多いが、他の自治体は自己負担を導入しているところが多い。墨田区でも、特定健康診査と大腸がん検診の同時実施を可能とした際、自己負担額を導入した経緯がある。切り替わりのタイミングで導入したことや受診機会が拡充したことにより、自己負担額を設定しても、受診者は多かった。胃がん検診の内視鏡検査についても、自己負担額を導入した。受診者が増えすぎないようにとの意味合いも込めて設定したが、ニーズが多かったので申込者が多かった。区民のニーズと受診機会を満たせば、自己負担額を導入しても問題ないかと思う。

渡邊会長：他に何かご意見はあるか。

寺田委員：資料7個別目標2の「がん対策アクション企業」というのはどういうものか。

事務局：職場でがん検診を実施しているところ、実施していないところも含めての把握が全国的にできないことが課題となっている。墨田区においても、企業に対して普及啓発も含めて、アプローチしていく必要がある。この取り組みは、協力していただける企業と墨田区が連携して周知啓発を進めていくというもの。現在、生命保険会社と連携をして、区のがん検診のパンフレット配布の協力をしていただいているが、この取り組みについては、さらに踏み込んで進める必要があるため、今後の事業の構築が課題となっている。

個別目標3「がんに関する正しい知識の普及啓発・健康教育の充実」

個別目標4「がん患者が尊厳を保ちつつ安心して暮らすことのできる地域社会の実現」

資料7の「個別目標3・4」に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

西塚委員：東京スカイツリーでは独自でピンクリボンの運動をしているかと思う。墨田区では乳がんの患者が多い状況のなかで、スカイツリーとのコラボレーションの実績はあるか。また、今後の取り組みについて、何か検討できないか。

事務局：スカイツリーは確かに区のシンボリック存在ではあるが、今のところ（がん検診・健康診査分野で）コラボレーションの実績はない。ピンクリボン月間等で連携するのも1つの方法かと思う。オリナス等の商業施設では、タイアップを実施しているが、スカイツリーでも検討していき

い。

渡邊会長： 他にご意見はいかがか。

佐藤（文）委員： がんは「怖い」と思っている。4回もがんを患っているが全てが0期で見つかったことを主治医に褒められた。最初の一步は保健所からくるハガキ1枚から始まった。私は健康手帳を持っていて、いつ何の検診を受けたか、何と言われたか記録している。1回だけの検診で終わりにならないよう、継続的に自分のメモリーノートを作って管理するようになったらいい。自分は区でもらった健康手帳に検診を記録していた。

椎名委員： 訪問看護ステーションでは、感染リスクの高い患者さんを訪問するので、細心の注意を払っている。フェイスシールドや手袋等の物資がすでに足りないという状況。今後、どのように感染防止対策をするのか、検討しているところである。コロナの影響での情報提供として、病院に入院すると家族と面会できなくなってしまう関係で、最期は病院でと考えていた方が、在宅で最期を過ごす決断をされる方もいらっしゃる。私たちNPO法人では、がん患者のための会を実施しているが、今年の区のピンクリボンのイベントについては、オンラインで開催するという方針をきいている。オンラインではアクセスできない方もいるかと思われるので、長丁場になることが予想されるこの状況のなかで、できる方法を考えていくしかないと考えている。

佐藤（幾）委員： がんの死亡率について墨田区は高い状況であり、またがん検診の精密検査が必要とされていながら、受診しないという状況について疑問を感じる。精密検査が必要と診断されたら、進んで検査を受ける必要があるのに、受けずに、重症化して亡くなってしまおうということについて、何がネックで受けないのか分からない。

西塚委員： 佐藤委員のご意見のとおり、本区の課題としているところである。現状はポピュレーションアプローチという形で、（検診対象者）全体にはがきを出して検診を勧める、その後精密検査を受診していない方にはがきを出して受診を勧める、という形で全体に対してのアプローチをしている。しかし、ビッグデータの活用により、去年に要精検と判定された人で今年も未受診という方等が、技術的に抽出できるようになってきている。リスクの高い人に対するアプローチ、ハイリスクアプローチが課題。また地域によって医療機関へのアクセスが悪い、出かけるのが不便だという高齢者が多い等の要因がないか、地域差・格差がないかという分析も必要となる。

桜井委員： コロナの影響が様々なところに出ている印象。東京都のがん教育はオンライン化が間に合わないため、中止との連絡が入っている。病院に行くことを怖がる方がいるのも事実、それに対して行けというのも違

	<p>う。何か別のやり方はないだろうか、と資料を見て考えていたところ。今はステイホームで家にいることが多いのだが、ケーブルテレビで何か普及啓発等できないだろうか。</p> <p>佐藤（幾）委員： ケーブルテレビは全ての方が無料ではないので、アクセスしにくいかもしれない。</p> <p>6 閉会</p> <p>高橋次長： 次回のがん対策推進会議は来年3月を予定している。</p> <p>今回の会議において、追加のご意見、ご質問などあれば、事務局までご連絡を賜りたい。以上をもって令和2年度墨田区がん対策推進会議を終了する。</p> <p>_____ 会議の概要は以上である。</p>
<p>所 管 課</p>	<p>福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 健康推進担当 （内線 3535）</p>